

以下は鳴津による

The Daily Signal, May 10, 2024 に掲載の

‘10 Most Common Pro-Hamas Lies About Israel’

by Victor Davis Hanson

の訳です。

Wikiによれば著者はスウェーデンとウェールズ系の人で、ユダヤ人ではありません。

イスラエルについてもっともよくあるハマス支持の 10 の嘘

反イスラエルの大学キャンパスと街路の抵抗運動参加者をニュースがどう解説するかを調べよ。彼らの要求と声明を読み。ハマスによるイスラエルでの 10 月 7 日テロの後バイデン政府が示した混乱を整理せよ。

以下は、10 月 7 日と以後のイスラエル・ハマス戦争についてのもっともよくある 10 の嘘である。

【ハマスは進歩的】

ハマスはファシスト的で、ホモセクシュアルの行為とライフスタイルを禁じているテロリスト組織だから、アメリカの抵抗運動家内のゲイやトランスの学生たちは、もしハマスが支配するガザに行けば命の危険にあうはずだ。公然とハマスやその同盟組織に抗議する者は誰でも、逮捕され厳しく処罰されるだろう。

ハマスが運営するほとんどの教育機関では、女性は隔離される。ハマスの綱領では女性は主に、子供を産む存在として評価される。ハマスの支配下では、ビジネスでも政府でも高い地位にいる女性はほぼ皆無であり、それは意図的結果である。

【(ユダヤ人は) 入植者、移住者】

学生たちは、イスラエル人は「移住者」で「入植者」だと叫び、ユダヤ人学生に「ポーランドに帰れ」の声を浴びせることもある。

しかし、現在イスラエルになっている地にユダヤ人が居住することは、古代の伝統に深く根ざしている。少なくとも 3000 年遡ればほぼ現在の場所にあった明確にユダヤ人の国家として、「イスラエル」の観念は歴史に染みついている。

それに比べて、アラブ人がビザンチン帝国内のレバント地方を侵略しパレスチナに達したのは、ユダヤ人のイスラエル建国から 1800 年ほど後のことである。

【二国家解決案】

抵抗学生たちは「川から海まで (From the river to the sea)」と叫ぶが、これは二国家解決案を擁

護するものではない。

これは、ヨルダン川と地中海の間にあるイスラエル国家と、ユダヤ人とアラブ人からなる 1000 万人のその市民を消し去れ、という要求である。ハマスの綱領は、一国家／イスラエルなし、という目標を掲げており、10月7日にはそれが追求されたのである。

【占領されたガザ】

イスラエルに隣接するガザ地区は独立している。イスラエル側国境は閉鎖されているが、これはエジプト側国境も同じである。ほぼ 20 年間にわたってガザにユダヤ人はいなかった。

だから 10月7日にガザは、イスラエル占領下にはなかった。米国政府によってテロリスト組織に指定されているハマスの支配下にあったのである。

ハマスは 2006 年に選挙で政権の座についてから、その後の選挙をすべて取りやめて独裁政権として支配した。ガザはユダヤ人がガザに入ることを禁止し、ほとんどのキリスト教徒を追い出した。イスラエルは、市民または住民として 200 万のアラブ人を受け入れている。

【ネタニヤフが問題だ】

米国とヨーロッパは、ガザにおける 10月7日の攻撃に対するイスラエルの強硬な応戦を支持しているのはベンジャミン・ネタニヤフ首相の保守的政府だけだ、と主張する。そのため EU と米国はともに、選挙で成立したネタニヤフ政府を掘り崩す、または葬ろうとさえする最大の努力をしている。しかしほとんどのイスラエル人は、ガザのハマスを破壊するというネタニヤフ連立政府の綱領を支持している。

他のこれに替わるイスラエル政府であれば、ハマスの現在の政策と異なることをするだろうと考えるべき証拠はない。

【市民を標的に】

ハマスは、10月7日に 1200 人近いイスラエル人を殺害した後ガザに逃げ帰り、病院、学校、モスクの下のトンネルや基地に隠れた。

その事前に計画された戦略は、ガザの市民が殺されることを確保することで生き残るというものがあった。ハマスは無差別に 7000 発以上のロケットを発射したが、それはすべてユダヤ人市民の殺害を意図するものである。

外部の評価者が出した結論では、イスラエルが意図せず殺した市民とテロリストの比率（市／テ）は、ほとんどの他の場所での市中戦闘と比べて大きくはなく、多分モスルとフェルージャでの米国の戦闘での比率よりも小さい。

【抵抗運動参加者たちはパレスチナ人支持】

時が経つにつれて、抵抗運動参加者たちは「パレスチナ人」支持とハマスの支持の区別をしなくなっている。

彼らのかげ声はしばしば、元々ハマスの（イスラエル）殲滅主義的綱領やその指導部の大量殺戮的うわごとであったものの口写しになっている。

抵抗運動参加者の一部は、ハマスのロゴを身につけそのテロリスト組織の旗を振っている。ハマスによる10月7日の殺戮に歓声を挙げる者も多い。

【反イスラエルはユダヤ人差別ではない】

抵抗運動参加者がユダヤ人学生に「ポーランドに帰れ」と叫んだり、「(ナチスの)最終解決」を要求したり、彼らを襲ったり大学施設の利用を妨害したりするとき、そのユダヤ人学生がイスラエル支持か否かを尋ねることはない。

抵抗運動参加者にとって、ユダヤ人とわかる者は誰でもユダヤ人差別の悪罵と暴力の標的になるのである。

【大量殺戮（ジェノサイド）】

ハマスが唱えるユダヤ人にたいする一国家解決案のようなやり方で、イスラエルがパレスチナの人々を一掃しようとしたことはない。

10月7日以前には、毎日2万人ほどのガザ住民がイスラエルでの職を求めた。正しくも、ずっと高い給与と人間的扱いを期待してのことである。

もしハマスがトンネルから出てきて、盾になることを押しつけられている市民から距離を置き、生存している人質を解放してから、イスラエル防衛軍と公然と闘うか、それとも10月7日の首謀者たちを引き渡していたなら、ガザの市民で死ぬ者はいなかっただろう。

ハマスによる疑問の余地ある「大量殺戮」の数字に従えば、ガザ住民のおよそ4%がイスラエルによる10月7日への軍事応戦の間に死んだ。様々な国際監視者によれば、それら死者の少なくとも三分の一から半分がハマスのテロリストであった。

【均衡を逸した応戦】

イランはイスラエルに320発のミサイルを打ち込もうとした。イスラエルが返したのは3発である。イスラエル防衛軍は、しばしば市民に事前警告のビラを投下し（デジタル）テキストを送信した後でガザで応戦した。しかしハマスはその前に、7000発のロケットを発射し1200人のイスラエル人を惨殺した。

イスラエルが均衡から外れているのは、応戦の効率のみである。ハマスとそれを支えるイランは、均衡を逸した危害をイスラエルに加えようとしたが、全くの失敗に終わったのである。

均衡を逸した武力を行使しようとする努力は同じだが、結果としてそれをする能力がイスラエルにはあり、ハマスにはなかったのである。